

前立腺がん検診は50歳から受けましょう



泌尿器科部長

平田 裕二

山香病院だより vol.43

率が高くなります。前立腺がん検診は、一般に50歳以上が推奨されていますが、前立腺がんの家族歴がある場合は40歳あるいは45歳からの検診が推奨されています。

■PSAの数値が高い場合は2次検診で前立腺の針生検が必要ですが、

PSA検診等でがんが疑われる場合は、前立腺針生検が必要になります。麻酔下に超音波で確認しながら前立腺に針を刺して小さな組織を採取し、がんの有無を病理学的に判定します。入院は1泊〜2泊が一般的です。

当院の検診センターではPSA検診を実施しており、当科では前立腺がんの診断治療に積極的に取り組んでいます。みなさんからの相談をお待ちしています。

今月は、前立腺がん検診について紹介します。みなさんは、もう既に一度は前立腺がん検診のPSA採血をお受けになられたでしょうか？

■前立腺がんは、どんな病気？

前立腺がんは、前立腺から発生するがんであり、早期であれば症状がありません。排尿に関する症状の多くは、良性疾患の前立腺肥大症によるものです。

■日本における前立腺がん死亡率は上昇傾向です。

前立腺がんは、欧米諸国に多く日本人には少ないといわれてきました。米国では、検診が普及し50歳以上の男性の75%は少なくとも1回以上のPSA検診を受け、早期発見による適切な治療により前立腺がん死亡率は低下傾向です。一方で日本のPSA検診普及率は低く、前立腺がん死亡率

は上昇傾向です。前立腺がん罹患率は食生活の欧米化などにより2020年に肺がんについて2番目になることが予測され、2020年の前立腺がん推定死亡率は2000年に比較して2.8倍に高くなることが予測されています。

■前立腺がんはPSA採血で早期発見が可能です。

前立腺がんの診断は、他のがんとは異なり、前立腺特異抗原(PSA: Prostate 前立腺 Specific 特異 Antigen 抗原)という腫瘍マーカー採血で早期がんの発見が可能です。PSAは前立腺細胞に存在しますが、前立腺がんにより前立腺細胞が破壊されると血液中に漏れ、でてきます。具体的には、PSAの数値が4ng/ml以上になると前立腺がんが疑われ、数値が高いほど前立腺がん罹患している確

